



No.17 / November, 2011

あまの丘だより

竹村内科・腎クリニック 〒322-0029 栃木県鹿沼市西茂呂 4-46-3

Phone: 0289-60-7577・Fax: 0289-60-7578・URL: <http://take2002.on.arena.ne.jp>

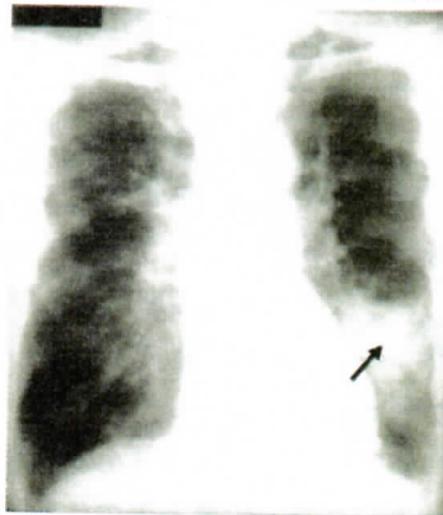
■ 予防接種の季節

昨年は、H3N2型（A香港型）やB型、2009年に登場したH1N1型の、3種類のインフルエンザが流行しました。H1N1型は、ブタ由来の「新型インフルエンザ」と呼ばれましたが、現在は普通の季節性インフルエンザになりました。今年の冬も、この3タイプに対応できるワクチンを用意しました。用意したワクチンと、実際に流行するタイプが一致する確率は90%以上とされていますが、変化が激しいので、予防注射をしても、かぜをひくことがあります。今シーズンから少し変わったのは、13歳未満の子供たちの対応です。接種量がWHOの基準に合わせて若干増えました。かつて使っていたワクチンに比べて、発熱の副作用のおそれが少ないワクチンが普及したことにより、また、1回目と2回目の接種間隔も従来は1~4週間でしたが、2~4週間になりました。間隔が短いと、免疫を付けるのが難しいとの判断です。ワクチンは、大人は1回、13歳未満は2回接種すれば、かかりにくくなったり、感染しても重症化を防いだりできます。抗体が十分できれば、効果は5ヶ月、弱ければ3ヶ月かもしれません。11月から12月上

旬の接種を、おすすめします。

● 肺炎予防

参議院の西岡議長が、肺炎で急死しました。日本人の死因の4番目が肺炎です。高齢者を中心に、肺炎で亡くなる人は年間8万人に達します。インフルエンザにかかった高齢者の、1/4が細菌性肺炎になるとも言われています。



70歳未満で入院していないかたの原因は、マイコプラズマという病原体が多く、肺炎球菌は2番目です。しかし、70歳以上は肺炎球菌が第1位です。肺炎球菌が引き起こすほかの病気として、気管支炎などの呼吸器感染症のほか、副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎などがあります。大人用の「肺炎

球菌ワクチン」は、肺炎球菌以外の肺炎の予防効果はありませんが、このワクチンには、「肺炎予防効果」とともに、肺炎球菌による肺炎になっても「軽症ですむ」、「抗生物質が効きやすくなる」などの効果もあります。抗生剤がききにくい、耐性肺炎球菌にも効果があります。高齢の慢性肺疾患患者にインフルエンザと肺炎の両ワクチンを接種すれば、入院を63%、死亡を81%減らすという報告もあります。65歳以上になったら、肺炎球菌ワクチンも、考えてください。

うらもみこね

♥ 運動負荷心電図

心臓病の検査方法のひとつに、心電図があります。不整脈や心肥大の診断のたすけになります。運動や労作などで、心臓に負担がかかると、発作をおこす病気があります。狭心症や不整脈発作です。ふだんの心電図に異常がないからと言って、狭心症ではないと言い切れません。そこで、心臓病の診断のためには、

運動負荷心電図が必要になります。当院では、自転車のような機械のペダルをこぐ、「エルゴメーター検査」を行っています。狭心症の診断のほかに、心臓病や不整脈を持った人が、どの程度の運動をしてよいかなどを決めるためにも、行われます。検査前には、医師の診察と、心電図、レントゲン、心臓エコー検査などがひつようです。くわしくは、医師にご相談下さい。(Sam)



学会をよい

10月1日、独協医科大学創立30周年記念館で、第34回栃木県透析医学会がひらかれました。県内の透析医療施設から、たくさんの医療スタッフが参加しました。当院からは、「長期留置型カテーテル管理の新戦略(高橋久美子)」、「当院におけるボタンホール作製の工夫と有効性(小島裕樹)」、「全身高度動脈硬化の末に腹部大動脈閉塞にいたった慢性腎不全の維持透析症例(根本修)」、「EPA/AA比は、透析症例における心血管イベント・シャントトラブルと関連するか(根本遵)」の、4題を発表しました。質問もたくさんよせられ、熱心な討議がありました。



さつき音楽評 「エリック・サティ ピアノ音楽全集」

今回はクラシック音楽をご紹介します。エリック・サティ(1866~1925)は、フランスで生まれました。13歳でパリ音楽院に入学しますが、「音楽学校が退屈すぎて」中退してしまいます。「音楽界の変わり者」、「音楽界の異端児」と言われました。「ジムノペディ」、「グノシエンヌ」などを発表しましたが、あまり評価はされませんでした。そのころのあだ名は「貧乏紳士」でしたが、彼の音楽はラヴェルやドビュッシーといった、印象主義の作曲家に強い影響を与えたのです。酒場でピアノをひいていたサティは、自分の作品を「家具のような音楽」と称していました。家具のように存在して、お客の邪魔にならない音楽と言うことのようなのです。普通のクラシックは感傷的過ぎるし、現代音楽はあまりにも理性的で叙情性がなさ過ぎる。サティの音楽は、ちょうど、そのまんなかくらい。疲れたときに聴くと、癒しになります。曲のなまえが、「ヴェクサシオン(いやがらせ)」や「犬のためのぶよぶよした前奏曲」、「魚の見る夢」、「ひからびた胎児」など、変わったものが多いです。面白いですね。興味を持たれた方は一度聴いてみてはいかがでしょうか?パスカル・ロジェの定盤(デッカ)、もしくは、高橋悠治の簡潔な演奏(日本コロムビア)は、おすすめです。(グッチ)



*今回から、紙面編集ソフトを変更して、レイアウトが若干かわりました。製作にすこし手間取りまして、おとどけが遅くなりましたこと、お詫びいたします。(編集長)